（試験研究課題年次別解説集様式３号：終了課題用）

漁場環境監視等強化対策事業

（予算区分　県単独　研究期間　平成１２～１８年度）
担当：水産試験場浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

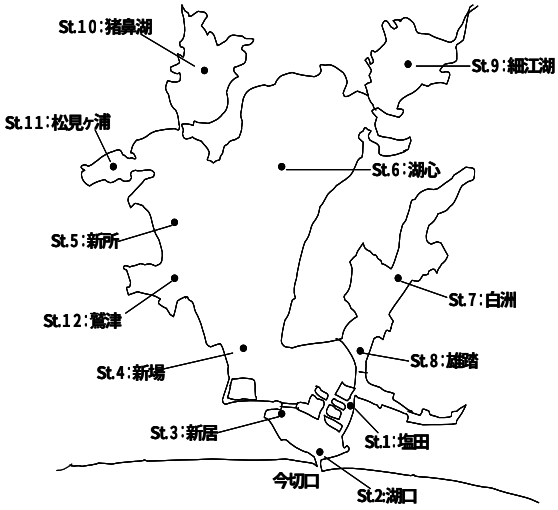
浜名湖では平成 8 年と平成 11 年に麻痺性貝毒の発生により二枚貝の出荷が停止され、漁業に大きな打撃を与えました。このようなことから、貝毒の発生と漁場環境の変化を的確に把握し、安全・安心な二枚貝を提供するため、本事業を実施しました。

【研究成果】

○漁場環境調査

浜名湖内に設定した 12 測点（第１図）について水質、麻痺性貝毒原因プランクトン、下痢性貝毒原因プランクトンの出現状況等を調査し、漁場環境を監視しました。

平成 18 年度の調査では麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されず、下痢性貝毒原因プランクトンは最大 2.6 細胞／ml 確認されました。



第1図　浜名湖定点観測点

○貝毒調査

麻痺性貝毒、下痢性貝毒の 2 項目について検査を実施しました（アサリは 12 回/年、カキは 6 回/年）。麻痺性貝毒・下痢性貝毒はともに平成 12 年以降検出されておらず、平成 18 年度も同様の結果となりました。

これらの調査により、貝毒原因プランクトンが出現し貝毒の発生が予想される場合でも、迅速に対策を講じることが可能となり、人的被害を防止し、かつ漁業生産への影響を最小限に抑えることが可能となっています。

写真１　浜名湖環境観測

【成果の普及方法】

普及事業の中で今後も調査を継続し、逐次その成果を普及指導します。

また、他海域と情報交換を行い、全国規模で漁場環境監視の連携を図ります。

（作成　平成１９年３月）